

令和6年度 農業関係政策に関する

意 見 書

令和6年12月10日

阿 賀 野 市 農 業 委 員 会

日頃より当農業委員会活動に、ご理解とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。

農業委員会は、食料の基盤となる農地を10年後も耕作できるよう日々、農業委員・農地利用最適化推進委員が、農地のパトロールやあっせん活動により担い手へ集積・集約を図り、遊休農地の解消や未然防止に取り組んでおります。また、新たな担い手の掘り起こしや新規参入者の促進に努めているところです。

令和5年度から、農林課と連携のもと、国が市町村に求める「地域計画」の策定に向けて、10年後に目指す地域の農地利用を示した目標地図の素案作成に取り組みました。

今後、地域計画の実現に向け、持続可能な農業経営を確立するために、農業者が直面している課題について11月18日に「農業者等との意見交換会」を開催し、農業者の意見を確認したところです。

つきましては、「農業委員会等に関する法律第38条」の規定に基づき、農地等利用最適化推進施策等に関する意見書として提出いたします。

なお、令和7年度の予算編成にあたり意見を踏まえ施策の実現に向け特段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年12月10日

阿賀野市長

加 藤 博 幸 様

阿賀野市農業委員会

会 長 見 尾 田 正 行

令和6年度 農業関係政策に関する意見書

1. 担い手不足について

令和5年に実施した3反以上の農業者の意向調査では、規模縮小・離農する意向が、令和6年に98人、今後10年以内では、約500人と担い手不足が深刻化しております。

頑張っている担い手も農地を受けることが限界に来ており、依然猶予のない状況であります。

- 1) 後継者や新たな担い手を確保するために、儲かる農業として魅力ある職業でなければなりません。農業所得向上のため、消費者の理解を得られる農産物の適正価格形成の実現に向けた仕組みづくりを進められるよう国に対して働きかけをお願いしたい。
- 2) 集落によっては、担い手がいない集落が出てきております。
地域おこし協力隊から集落の農業・農地を守っていただきたいと考える集落が増えております。引き続き予算の確保と地域おこし協力隊の集落等への周知をお願いしたい。
- 3) 当市の農業経営体は、大半を兼業農家が占めておりました。
機械の更新などを理由に離農する方があとを絶ちません。担い手不足の原因の一つになっていると考えます。農地を守って行くためには、多様な経営体確保が求められていることや集落の農地を受けて頂いておりますことから、営農が継続できる支援等をご検討していただきたい。

2. 農地の集積・集約について

農地の担い手への集積率 80% を目標に取り組み、昨年度末で 68.3% となっているところであります。集約については、まだまだ点在して管理している担い手がほとんどでありますので、地域計画の実現に向け話し合いを重ね集約を進めなければなりません。また、遅れている圃場整備は生産性の向上を図り、農地利用の集積・集約に寄与することから更なる推進が必要と考えます。

- 1) まだまだ小区画の圃場の地域では、圃場整備の順番を待っている状況であります。県へ圃場整備の更なる推進に向け働きかけをお願いすると共に、確実に市予算の確保を引き続きお願いし、加速するようお願いしたい。
- 2) 国の補助金で実施する阿賀野市農業基盤整備促進事業（畦抜き・暗渠）については、昨年 7 月に事業要望調査があり今後 3 年間（R6～R8）の事業個所、事業費が確定されました。これから取り組みたくても補助金を受けられない状況となっています。地域計画での集約を加速するためにも、市単独の畦抜き対策をお願いしたい。

3. 収益の向上について

農業経営体は、稲作中心の経営体が多く冬季間の収入確保に悩んでいる状況があります。中には、除雪作業のオペレーターを行っている方もおりますが、農業で1年間通して経営できることを求められております。

- 1) 冬季間の育苗ハウス等の利用による園芸導入など冬季間に収入確保できる情報提供や栽培研修会などを実施していただきたい。

農業者が直面している課題や意見

1 担い手不足

- ・春作業の作業員の確保が大変、地主から手伝ってもらいたい。
- ・畦の除草、草刈り作業が大変である。
- ・農地の集積・集約が進んでも人がついていけない。
- ・子に農業を継いでほしいとは、言えない。
- ・現役農家は、自分が辛い思いをしているため、若手に進められない。
- ・10年後には、農家が1軒になる。ビジョンが見えない。
- ・圃場整備をしても担い手がいないのではないか。
- ・後継者の将来性も考えていかないと安心して移譲できない。
- ・地域おこし協力隊が継続されるためには、どうしたらよいか。
- ・圃場整備が先になるため、後継者が育たない。
- ・働きながら農業ができる環境を望む。

2 農地の集約・集積

- ・圃場整備、あまりにも遠い。
- ・圃場整備がくるまで遠いので、畔抜き事業にもっと予算をつけてほしい。
- ・基盤整備しないまま交換すると格差が出てくる。
- ・畔抜きしたくても段差が大きいため、畔抜きできない。
- ・圃場整備を強力に進めてほしい。
- ・スマート農業は、大圃場でなければ無理である。
- ・飛び地で管理が行き届かない圃場がある。
- ・個人でも畔抜き、3年スパンの補助申請は長い。
- ・市単独の畔抜きの対策を望む。
- ・集積は進められても集約は条件が厳しく、難しい。
- ・圃場整備等で条件を良くしないと集約を進めるのは厳しい。
- ・機械は補助金がないと高くて買えない。
- ・受け手がどれくらいの耕作ができるかにより方向性が見えるのではないか。
- ・農業を始めて2年、圃場は集まるというが、5年、10年後どのように拡大していくか。

3 収益の向上

- ・国の直接支払いで農家の所得を底上げしてほしい。
- ・専業農家の冬期間の収入は何か。
- ・単価が安いとため、産地化してほしい。
- ・産地化をすすめたこともあったが、まとまらなかった。
- ・米以外で冬対策、機械作業（人手不足）で儲けられるもの。
- ・冬期間に、何を作ればよいのかわからない
- ・法人の経営の仕方により、健全な経営になる。

4 その他

- ・多面の補助金を幅広く柔軟に使えるようにしてほしい。
- ・鳥獣害対策の補助金はあるか。畔はなくなり、稲はつぶされる。
- ・まだ、利用可能な農機具をレンタルする仕組みづくり。
- ・指導してくれる人がいない。
- ・個人経営には情報が伝わってこない。また、補助金制度がほしい。
- ・今、すぐに困っていることはないが、機械の購入などこの先に出てくるであろう問題を意見交換したい。
- ・ハウスや堆肥等の補助金を考えてほしい。